様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２４０８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０２８４０

研究課題名（和文）日・韓におけるESDの視点を取り入れた道徳科教育プログラムの開発と検証

研究課題名（英文）Development and Verification of Moral Education Programs Incorporating ESD Perspectives in Japan and Korea

研究代表者
孫　美幸（Sohn, Mi Haeng）

文教大学・国際学部・准教授

研究者番号：４０７５５４９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：①ESDの視点を取り入れた道徳科教材の一つとしてデザインしたワークシートを4パターン開発し、リーフレットとともに公表できた。
②上記の活用方法について、韓国と共有することを視野にいれて検討を進め、韓国の道徳科におけるESDの方向性や日本と共有していく上での今後の課題について整理できた。
③ESDの視点を取り入れた道徳科を発展させる応用的なプログラムについて検討を進め、理論的背景の整理とともに実践研究を進め、学会発表や論文としてまとめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では下記2点について意義が大きいと考える。
①日本の道徳科教育における、多様な人々と共に生きる力を培うESDの視点の意義を、韓国の道徳科研究を参照しながら検討し、「考え、議論する道徳科」を教員一人ひとりが創造的に実施できるポイントを整理できた。
②上記の視点に基づく道徳科の教材（ワークシートやリーフレット）を開発し、韓国と共有する視点を勘案しながら、改良できる点を整理した。また、基本的なプログラムをさらに発展させた応用的なプログラムを考案し、実施した上での成果を公表することができた。

研究成果の概要（英文）：・I developed four patterns of worksheets designed as one of the moral education teaching materials that incorporate the perspective of ESD.
・I considered the relationship between ESD and the moral education in Korea, and also the direction of sharing the program with Japan.
・I developed applied programs centered on the moral education that incorporates the perspective of ESD.

研究分野：教育学

キーワード：ESD　道徳科　日本　韓国　共生　自然

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

新学習指導要領では、「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる」ことを目指している。このようなグローバル化、多元化する社会の中で、考え方の幅を広げたり、視点を変えたりする「考え、議論する道徳科」の重要性は増している。

しかし、道徳科は、それに対応する科学や学問的根拠が十分整理されていない。さらに、教員の多忙化や新しい評価への不安等から安易に型やマニュアルを求めがちであることなど、授業を実施する教員の指導力育成も不十分であるという問題が指摘されている。

つまり、これまでの道徳教育の歴史を踏まえて、新しい道徳科教育を進める理論面、実践面に関する学術的検討が不十分なまま、実施が進んでいる。それは、結果的に教員が安易に型やマニュアルを求めることにつながり、子どもたちに本気で考えることを求める「考え、議論する道徳科」の実現が難しくなる。

２．研究の目的

本研究では、「多様な人々と共に生きる力を培うことのできる、「考え、議論する道徳科」教育とはどのようなものか」を明らかにする。そして、多様な人々と共に生きる力を培うことを目標とする ESD（持続可能な開発のための教育）の研究業績が、「考え、議論する道徳科」教育の学術研究の基盤になると考え、一早く道徳の教科化を進めてきた韓国の道徳科との比較を通して、調査研究を実施する。最終的には、教員が安易なマニュアルに頼ることなく、自信をもって子どもたちと一緒に主体的に考えることのできるような道徳科の教材開発を試みる。

３．研究の方法

・鍵概念の文献レビューと整理、道徳科教育における「ESD」の意義の検討
・「ESD」を実践する教員へのインタビュー実施・成果分析
・「ESD」の視点を取り入れた道徳科教育の教材開発、現場での検証と改良

４．研究成果

研究期間全体を通じで実施した研究の成果としては、①ESD の視点を取り入れた道徳科を中心とした応用的なプログラム開発、②ESD の視点を取り入れた道徳科で使用可能なワークシート開発、③韓国における ESD や道徳科との関連についての基本的な整理を行い、日本とプログラムを共有する方向性について検討できたことである。

まず、中学校での ESD 実践から得られたキーワードを手がかりに、現在の学習指導要領における道徳科の課題を乗り越える方向性を考察した。 現在の道徳科は、導入に到った経緯、政治性の問題を無視することができない。政治性という問題から、「考え、議論する道徳」は表面的な言葉の議論の枠を越えることができず、真の「主体的な深い学び」の実践へと発展させることは難しい。このような現状を踏まえ、コロナ後の未来へと結びつく ESD 実践とはどのようなものか、道徳科との関連から整理した。 そして、調査した中学校における ESD 実践の概略、特に 2020 年度に実施した 3 名の教員による家庭科と道徳科の 3 種類の授業を中心に、①ケアする/される、②会話と対話が織り成す時間・ポリフォニー（多声性）に耳をすます、③開かれた身体性と言葉を紡ぐこと・身体と言葉そのものが響き合う感化、④道徳の枠組みそのものを問うテーマ設定という 4 つのキーワードから考察し、上述してきた道徳科の課題を乗り越える可能性を探った。考察の成果として、身近な草をテーマにした道徳科授業の具体的実践や「ライフヒストリーデザイン曼荼羅」という子どもから青年期版ワークシート事例を提案した。 上記の成果を、学会や教員研修会で発表し、論文としてまとめることができた。また、持続可能な開発と地域の文化や学びという視点から、学校における道徳科授業とも関連のある授業実践や ESD とつながる思想的背景について検討し、学会プロジェクトの公開研究会で発表した。

その後、ESD の視点を取り入れた道徳科教育教材の一つとしてワークシートをデザインし、多岐に応用できるようにリーフレットを作成した。そして、ESD の視点を取り入れた道徳科をより発展させる応用的な取り組みとして、地域における持続可能な開発と学びをテーマに、理論的背景の整理や実践研究を行った。 道徳科においてポリフォニーを紡ぐ授業デザインに活用できるワークシートとして、子ども～青年期版の「ライフヒストリーデザイン曼荼羅」を 4 パターンデザインした。道徳科の学習領域、「(D) 主として生命や、自然、崇高なものとの関わりに関すること」を中心にしたものであり、授業実践例として「身近な草から考える内面の旅」を掲載した。子どもたちが記入しやすいようにイラストや記入スペースに工夫を凝らしたり、ストーリー性をもたせたりして、パンフレットには 3 パターン掲載した。URL からもダウンロード可能なように設定した。そして、中学校における人権学習の実践を核にして、多様な文化背景をもつ人々との共生から、生きやすい、暮らしやすい社会を考えるプログラムを整理して、実施した。実施後のインタビューや学校教員との協働実践研究のふりかえり等を通して、研究報告を行い、論文や報告書にまとめることができた。地域の歴史や伝承を学ぶことを通して、排除の構造や地域の開発の問題など、人々が生きやすい、暮らしやすい社会とは何かに気づくきっかけとなったこと

が明らかになった。自己の中に生まれる複数のアイデンティティ、それら交錯する点を見出すこと、これらの実践にはそのようなプロセスを生み出しやすくする仕掛けがあった。

最後に、ESD の視点を取り入れた道徳科教材としてデザインしたワークシートの活用方法について、韓国と共有することを視野にいれて検討を進めた。そして、ESD の視点を取り入れた道徳科を発展させる応用的なプログラムについてさらに検討し、理論的背景の整理とともに実践研究を進めた。韓国における ESD の位置づけや道徳科の新しい方向性について整理を行った。韓国における ESD は GCED（世界市民教育）の包括的な概念の下に位置づけられてきた。しかし、OECD やユネスコ等の国際的な流れとともに、韓国では新しい社会を想定した 2022 年度改訂教育課程が公表された。「包容性・創意性・主導性」をキーワードとしており、ESD の視点についてもより濃厚に描かれるようになった。これまで開発してきたプログラムやワークシートを韓国の道徳科の「自然との関係」の視点をベースにして共有していくことは可能な段階にある。しかし、韓国と共有する際の基本的概念についてはさらに精緻が必要である。例えば、開発したワークシートの背景となった曼荼羅図は「起承転結」の展開でコメント記入できるようになっているが、韓国の伝統音楽には「起承結解」という言葉がある。その言葉には、土地のシャーマニズムや込められた「恨」を溶かしていくような視点もあり、日・韓で共有してくには、今後工夫が必要である。また、前年度までに整理した多様な文化背景をもつ人々との共生から、生きやすい、暮らしやすい社会を考えるプログラムをさらに発展させることができた。ESD の視点を取り入れた道徳科で重視してきた、「(D) 主として生命や、自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点を取り入れ、自然環境から人間との共生まで地続きで学ぶことについて考察を深め、研究発表や論文作成を行った。それらに関連する教員の取り組みや身振りについても聞き取り調査を行い、その結果について論文にまとめた。

（引用文献）

教育部（2022）『道徳科教育課程』教育部告示第 2022-33 号［別冊 6］【韓国語】

佐貫浩（2015）『道徳性の教育をどう進めるか　道徳の「教科化」批判』新日本出版社

徐淵昊著　中村克哉訳（2015）『韓国の伝統芸能と東アジア』論創社

日本国際理解教育学会 研究・実践委員会 （2022）『【2019 年度～2021 年度】研究成果報告書 オンライン版 政策研究プロジェクト ユネスコ 1974 年国際教育勧告から 日本の「国際理解教育」政策を問う ―「国際理解教育」の推進を阻害しているものは何か』

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 孫美幸	４．巻 第67集
２．論文標題 教育実践者に必要なホリスティックな学びの経験　学校教師の学校内外の学習経験に着目して	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本の社会教育第67集　SDGsと社会教育・生涯学習	６．最初と最後の頁 87-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 孫美幸	４．巻 -
２．論文標題 大陸との交流史や伝承を通した地域へのまなざしの変化　私から変わる「多文化共生」の学びづくり	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本国際理解教育学会研究・実践委員会【2019～2021年度】研究成果報告書オンライン版地域論プロジェクト持続可能な開発/発展と地域の生活・文化・学び	６．最初と最後の頁 142-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 孫美幸・飯塚宜子・園田浩司	４．巻 -
２．論文標題 6　民話タスクチーム研究報告　民話を通して地域の学び～ローカルとグローバルをつなぐ歴史性と持続可能性～	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本国際理解教育学会研究・実践委員会【2019～2021年度】研究成果報告書オンライン版地域論プロジェクト持続可能な開発/発展と地域の生活・文化・学び	６．最初と最後の頁 99-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 飯塚且子・園田浩司・孫美幸・南雲勇多・林加奈子・廣瀬俊介・簑田理香・宮野祥子・山西優二	４．巻 -
２．論文標題 第2章地域論プロジェクト 持続可能な開発/発展と地域の生活・文化・学び	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本国際理解教育学会研究・実践委員会特定課題研究21世紀の社会変容と国際理解教育報告書	６．最初と最後の頁 30-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 孫美幸	4．巻 32（2）
2．論文標題 ESDの視点から考える道徳科授業　奈良教育大学附属中学校におけるESD実践を手がかりに	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文教大学国際学部紀要	6．最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 孫美幸	4．巻 30（2）
2．論文標題 沖縄の民話における「異人」たちと「多文化共生」日本社会における多文化共生教育への示唆	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文教大学国際学部紀要	6．最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 孫美幸	4．巻 23
2．論文標題 済州島の民話における「異人」たち　韓国社会における多文化教育をより深化させるために	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ホリスティック教育/ケア研究	6．最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計22件（うち招待講演　7件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 孫美幸
2．発表標題 共生にむけた「ゆたかな学び」を支える教員の身振り
3．学会等名 一般財団法人教育文化総合研究所第7回研究交流集会「主体的・対話的で深い学び」を問い直す
4．発表年 2024年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 「平和の文化」に連なる共生の伝承や身振りを学ぶ　コロナ禍での多文化共生教育実践を通して
３．学会等名 日本国際理解教育学会重点課題事業第7回「平和の文化」連続トーク
４．発表年 2023年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 脱植民地の視点から考えるホリスティックな多文化共生教育
３．学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会　第6回研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 山西優二，南雲勇多，林加奈子，宮野祥子，孫美幸，飯塚宜子，園田浩司
２．発表標題 地域論プロジェクト　持続可能な開発と地域の生活・文化・学び
３．学会等名 日本国際理解教育学会第31回研究大会研究・実践委員会特定課題研究
４．発表年 2022年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 SDGsの視点から考える多文化共生の学びづくり
３．学会等名 DEARカレッジSDGs学習のつくりかた第6回多文化共生（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 大陸との交流史や伝承を通した地域へのまなざしの変化　私から変わる「多文化共生」の学びづくり
３．学会等名 日本国際理解教育学会研究・実践委員会地域論プロジェクト第5回公開研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 ESDの理念を含んだ道徳の授業をどう考えるか　平和、共生、人権の観点から
３．学会等名 奈良教育大学附属中学校公開研修講座（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 多文化共生教育のあり方を考える
３．学会等名 第5回立命館大学実践教育学会研究大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 「多文化共生」から考えるシティズンシップ教育
３．学会等名 シティズンシップ教育研究大会2021シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 ESDの視点から考える道徳　奈良教育大学附属中学校におけるESD実践を手がかりに
３．学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会2021年度研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 多文化共生教育のあり方を考える
３．学会等名 DEARカレッジSDGs学習のつくりかた第4回多文化共生（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 山西優二・南雲勇多・林加奈子・宮野祥子・孫美幸・飯塚宜子・園田浩司
２．発表標題 地域論プロジェクト　持続可能な開発と地域の生活・文化・学び
３．学会等名 日本国際理解教育学会第30回研究大会研究・実践委員会特定課題研究
４．発表年 2021年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 京都における大陸との交流の歴史と伝承から学ぶ「多文化共生」中学生の学びの考察を通して
３．学会等名 日本国際理解教育学会第30回研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 山西優二、南雲勇多、孫美幸、林加奈子
２．発表標題 地域における学びづくり・文化づくりと持続可能性　益子タスク・隅田川タスク・民話タスクからの現状報告
３．学会等名 日本国際理解教育学会研究・実践委員会特定課題研究「21世紀の社会変容と国際理解教育を展望する」
４．発表年 2020年

１．発表者名 河野桃子、池田華子、孫美幸、福若眞人、津山直樹、成田喜一郎
２．発表標題 「対話シート」を用いた振り返りワークショップ
３．学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会2020年度公開研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 学校教育の「体験活動」を深化させるホリスティックな学び　SDGsの学びのあり方との接点を探る
３．学会等名 日本社会教育学会プロジェクト研究「SDGsと社会教育・生涯学習」第2回公開研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 ESDの視点から考える道徳
３．学会等名 奈良教育大学附属中学校道徳研修会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 京都の伝承を通した東アジアのコスモロジーを学びの中へ
３．学会等名 日本国際理解教育学会研究・実践委員会地域論プロジェクト第3回公開研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 韓国済州島の民話から考える多文化共生　日韓関係への示唆
３．学会等名 日本国際理解教育学会第29回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森結香、上口麻李、竹村景生、孫美幸
２．発表標題 「総合的な学習の時間」の内発的ESD実践への転換に向けて　「ひとに出会う」を通して子どもたちの気づき・自己変容の語りを捉える
３．学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会2019年度研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 孫美幸
２．発表標題 平和教育、人権教育から考える道徳　ESDとの関連を探りながら
３．学会等名 奈良教育大学附属中学校教職員研修会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Atsuhiko YOSHIDA, Hanako IKEDA, Yoko OKUMOTO, Mihaeng SOHN, Momoko KONO, Hiroyuki OYAMA, Hiroe KIDO
２．発表標題 Holistic Education/Care Research in Japan Focusing on the 2019 Conference Report
３．学会等名 The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 孫美幸	４．発行年 2022年
２．出版社 解放出版社	５．総ページ数 100
３．書名 ともに生きやすい社会って？わが家の「師匠」たちと学ぶ	

１．著者名 孫美幸	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 163
３．書名 深化する多文化共生教育　ホリスティックな学びを創る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関